

## 希望と絶望の織りなす源流釣行



(報告者) 大貫和之

釣行日：2023/9/1～3

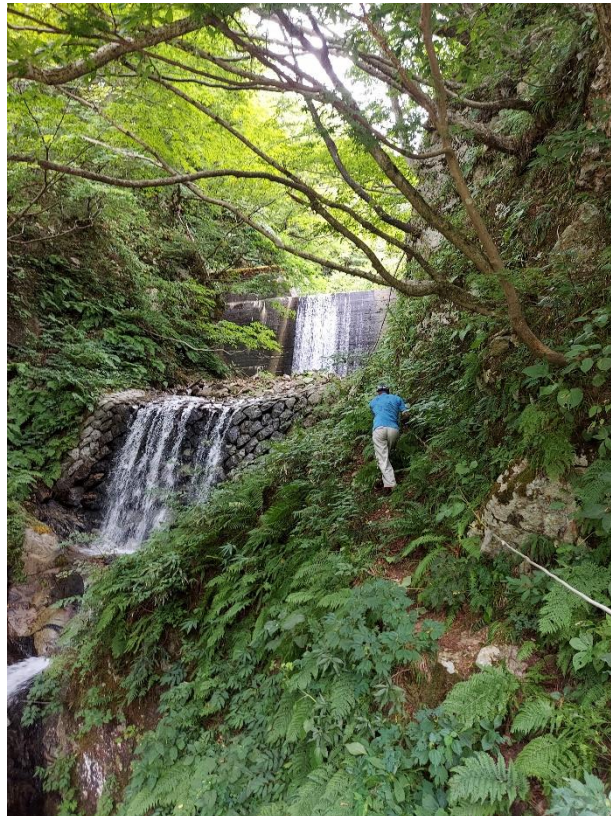
メンバー：平江誠、大貫和之

今年の釣行計画を見て必ず参加をすると決めていた北又谷、参加の連絡を平江さんに入れてから毎日×2国土地理院の地図を見ながらルートを探すのが日課になっていた。

釣行前日は仕事を終えて平江邸で合流し一路富山に向けて出発である、片道約

7時間半の道程だがあっという間に車止めの温泉に到着、午前二時前だったが入山祝を軽めのにして？出発に備えた。

朝の八時出発、真っ暗なトンネルを抜け間もなく入渓する沢に到着。



入渓の沢は堰堤が多いと事前に分かっていたがマジで多い・・・

踏み跡は多少あるものの高巻きを繰り返す、毎回思うが上流部の堰堤はどうやって建設したのか非常に興味深い話である。

上流部まで来て二俣を右にここから何もなく乗越ポイントのコルに出れるはずだったが傾斜がキツクザレていて遂にセミになってしまったが平江さんにフォローしてもらい何とか灌木につかまり進んで行くがきつい何の足場の悪さと

急傾斜で灌木に捕まっていなくて立ってられない始末、傾斜角度を言葉で表現するなら“ぎゅいーーーーーん”である。



題名にも出したが地形図を見ては傾斜が緩くなっていると希望をいただき実際を上を向くと絶望の繰り返しである。

暫くすると平江さんが尾根出たぞと声が目の前には2 m弱の崖とトラバースすると草付きのつるっつるの斜面、崖か？確実に落ちる斜面か？

いやーーーーっ本気で悩みましたよ・・・

悩んでいるとコルの方から平江さんの声が、覚悟は決まった！

つるつるの斜面に出来るだけ上に上がり落ちながら灌木にしがみつきやっと  
コルに！後は20m下るだけと希望が、しかし平江さんが異変に気付く聞こえ  
るはずの沢の音が聞こえないと不安を抱きながら降下すると水不足で干上がつ  
た沢が・・・絶望・・・

取り敢えず本流出合まで下ると極上のテン場がほっと一安心する。



焚き火を囲みながら乾杯、疲れた身体に染み渡るアルコール！

そして極上のツマミで身体を癒す。

釣行のバカ話で盛り上がり知らず知らずのうちに夜も更けていき、シェラフに

潜り込み就寝。



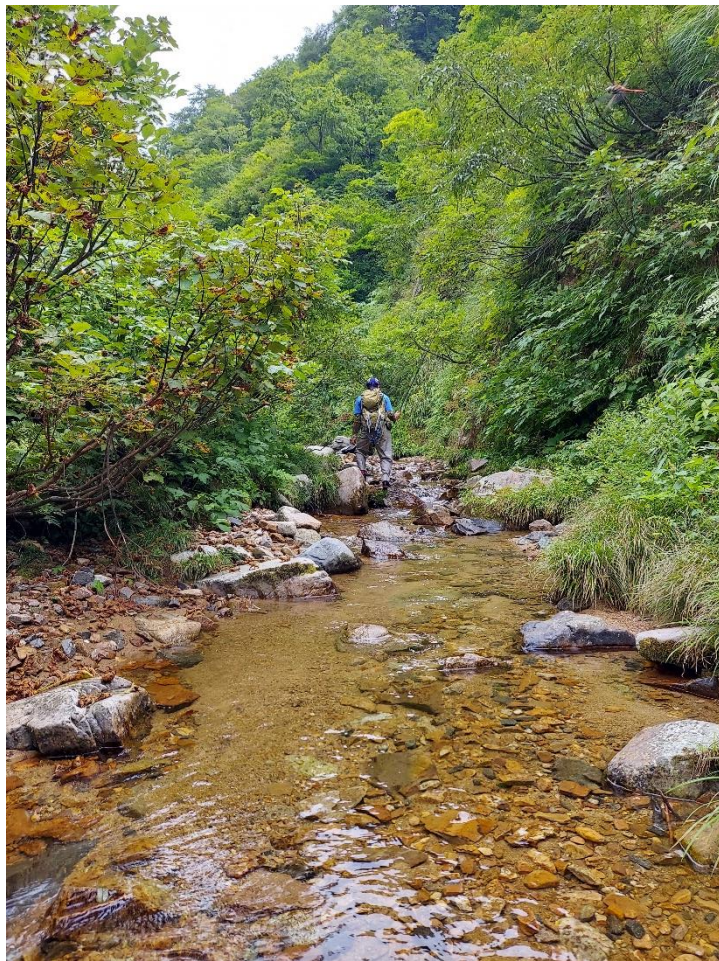
大貫特製 豚肉の味噌漬け



## 平江さんのアラビータ

二日目は釣りだが北又谷には行かず本流を釣る事に下ろうとすると先が見えない程の連瀑が・・・懸垂で降りる事さえ出来ない・・・

本流を釣り上げる事にするが濁水でどこまで水があるのか分からない、まあ行くだけ行ってみることに。



小川のような本流

食いつきは良くないが当たりはあるまあまあの型もあがる、ゆっくりとのんび

り釣りを楽しむ。



しっかりと釣果を出す平江さん



負けじと大貫

釣りを早目に切り上げテン場に戻り酔っ払う前に帰りの相談をする、このまま本流を詰めあがり登山道に出るか来たルートに戻るか？戻るにしても3mの切り立った断崖をどう上るか？

結局来たルートに戻る事に話がまとまると、この地を名残惜しむかのように煌々と燃え盛る焚き火を前に酒を呑み宵が更けていく。

三日目の朝、帰りは長丁場になるとふみ弁当をこしらえ出発！



旨いぞう

途中、喝水した沢の水たまりで尺ほどのイワナが酸欠であろうか死んで浮いて



いた初めて見る光景だった。

やはり行けども岸壁が続くが平江さんがここから行こうとルンゼを指差す・・・

それを見る大貫・・・心の中で・・・

“こんな所行けるわけねーーーーだろ”

と書いていても口には出せず10分時間をもらい空身で登り口を探しに行く、

あんな所に行くぐらいならと必死に探すと登り易い場所が！？ここなら行ける

とほっと平江さんと呼びに戻る。

尾根まで登る後は下るだけ支尾根をトラバースしながら沢筋に降り立つ事が出

来た。水がある喜びを噛みしめながら平江さんと握手を交わし昼飯をほうばり

ながら大休止を取る。



さあ後は車止め迄帰るだけだ！

疲れた身体に鞭を打ち重い腰を持ち上げ足を進める、堰堤を下り入渓点の舗装道に辿り着き帰りのトンネルではコウモリ達に見送りしてもらい無事に車止めに到着！希望と絶望の織りなした沢旅が幕を下ろした。



平江さん、ありがとうございました。

必ず来年も来るよと誓いをたて帰路についたのであった。

